

9. 京田辺市史の文書調査

東 昇

1. 概要

京田辺市においては、2014年度から歴史史料調査、2017年度から市史編さん事業を行っている。京田辺市との覚書（2021年度より連携協定）により、文学部歴史学科が協力し、多くの教員および学生・院生が参加し各種調査等を進めている。

2021年度も引き続き、文化情報学研究室を中心に市史編さん事業に参加した。その活動内容としては、近世・近代文書の撮影や文書整理、近世史執筆内容検討会などが挙げられる。調査参加者は、東昇（教員）、竹中友里代、山田洋一（以上、特任講師）、滝澤和湖（博士前期課程1回生）である。

2. 近世史執筆内容検討会

また、本年度もコロナ流行により学内・オンライン中心の調査・研究会となった。中世・近世部会の部会員・市史編さん室職員が調査・研究報告を行う近世史執筆内容検討会は、2019年11月から実施され、すでに10回開催されている。本年度は、以下のように各文書・現地調査で判明した成果を報告した。

- ・山田洋一「村絵図と古文書にみる淀稻葉家領の諸相について」
- ・竹中友里代「曇華院領大住村の京都火災救援活動について（2）」
- ・松本勇介（市史編さん室）「[大住村諸記録]に見る大住村の概要」
- ・東昇「近世薪村の人の移動と生活」
- ・中川博勝（中世・近世部会員）「大住村旗本天野領の株分け」
- ・竹中友里代「天王村朱智神社宮座争論について」
- ・山田洋一「飯岡村用水の流路について」
- ・東昇「寛政・天保期の松井村の家族の実態」
- ・中川博勝「大住村旗本天野領三株における土地の分割状況」
- ・松本勇介「『井手町史』及び『京都府地誌』の検討」
- ・竹中友里代「朱智神社宮座方・拝殿方両座争論」
- ・山田洋一「市域領主蜷川家と高木村領について（1）一同家を中心に」

2021年10月25日には、山田が現地調査、絵図・文書調査により、飯岡村用水の流路について報告した。東は、寛政7年（1795）「山城国綴喜郡松井村浄土宗切支端宗門御改帳」の分析から、1家族あたり平均3.7人、父母や伯父伯母と同居する複婚家族が少ない、村内出身者が8割を占める、村外出身者は松井村の近隣の綴喜・久世郡、国境に接するため河内にも一定存在するなどの特徴を紹介した。